

# 競技運営規程

1. 本大会の運営は、この運営規程による。

2. 競技規則は、(公社)日本ホッケー協会2017年度6人制ホッケー競技規則による。

**\* 平成29年度のスポーツ少年団・中学生(全国大会)の競技運営規程にならない、本大会は次のような取り扱いとする。**

「第39回全国スポーツ少年団ホッケー交流大会」

- (1) 試合開始時はセンターパスとします。
- (2) フリーヒットは、ボールをしっかり静止してからプレーをはじめます。(ヒット、プッシュ、フリックに加えてスクープで始めることができます。)
- (3) センターライン上に置かれたボールは自陣エリアと見なします。(味方：4m以内に入れる←→相手：4m離れなければならない)
- (4) サイドライン上からのヒットインは、全てボールが出た場所から再開します。
- (5) コーナー再開位置(規則 7.4b)について、ボールがバックラインを横切った地点の延長線上でバックラインから1.6m地点より実施します。
- (6) PC 時におけるフライング(攻撃側・守備側)およびフェイントについては、罰則としてセンターラインに戻します。
- (7) ハイスティックに関しては、危険防止のため、従来通り禁止とします。
- (8) PC の後に、コート内に残っていた不要になった守備側選手の装具にボールが当たった場合には、サークル外ならFH、サークル内ならPCになる。(2017新規/規則 9.16)

「第47回全日本中学生ホッケー選手権大会」

- ◎ PC の後に、コート内に残っていた不要になった守備側選手の装具にボールが当たった場合には、サークル外ならFH、サークル内ならPCになる。(規則 9.16)
- コーナー、攻撃側の波線内のFH およびコーナー付近のサイドラインからのFH 再開位置について昨年度(H27)より変更あり。・・・破線内のFH 再開はそのポイントから。LC については1.2mから⇒1.6m仮想ライン上からに変更。
- ハイスティック規則を廃止する。
- PC 時におけるフライング(攻撃側・守備側)およびフェイントについては、罰則としてセンターラインに戻すルールが採用される。
- 退場(黄色カード)は3分以上。(時間の計測アンパイア)
- グリーンカードは警告のみ(退場はなし)
- 給水タイムの採用は行わない。  
※上記◎は今年度より採用のルール変更。●は H28.4.27 6人制レギュレーション変更について通達による。○は従来からのルールの再確認。

3. 競技時間は、小学生・中学生ともに前後半各10分・ハーフタイム2分とする。

4. 競技方法

\* 小学生男子の部(28チーム)

参加チームを8グループに分け、1日目に予選リーグを実施し、2日目は各グループの第1位および第2位のチームによる決勝トーナメント戦をする。**2日目に予選グループ敗者チームによる交流試合を行う。**

\* 小学生女子の部(15チーム)

参加チームを5グループに分け、1日目に予選リーグを実施し、2日目は全チームによる決勝トーナメント戦をする。**当初は、2日目に予選グループ敗者による交流試合を予定していましたが、参加チームが少なかったため、全チームによる変則トーナメントに変更しましたので、注意してください!**

\* 中学生男子の部(24チーム)

参加チームを8グループに分け、1日目に予選リーグを実施し、2日目は各グループの第1位および第2位のチームによる決勝トーナメント戦をする。

\* 中学生女子の部（20チーム）

参加チームを6グループに分け、1日目に予選リーグを実施し、2日目は各グループの第1位および第2位のチームによる決勝トーナメント戦をする。

## 5. 延長戦

- ① 延長戦は行わない。
- ② 決勝トーナメント戦において、時間内に勝敗の決しないときは、7に定めるシュートアウト（SO）戦によって勝敗を決定する。

## 6. 勝点制について

リーグ戦において、試合の結果勝ちチームに3点、負けチームに0点、引き分けの場合はそれぞれ各1点を与えるものとする。

勝点と同じ場合は、下記の事項により順位を決定する。

- ① 直接対決の勝者
- ② 得失点差数
- ③ 総得点数
- ④ SO戦

## 7. SO戦による勝負の決定方法

- ① 両チームの監督は、自チーム内よりレッドカードによる退場処分を受けている選手を除いた、出場登録済みの選手の中から3名の選手（シューター）と1名のゴールキーパーを指名する。
- ② 両チーム主将によりトスを行い、先攻後攻を決める。その後両チーム3名ずつのシューターにより交互に攻防を1巡行い(計6本)、得点の多いチームを勝者とする。
- ③ ②の方法によって勝敗が決しない時は「サドン・デス方式」すなわち両チームが同数のシュートを行った中で最初にリードしたチームを勝者とする方式により、再SO戦を行う。この時は、最初先攻のチームが後攻となり、選手はプレー不可能な者を除き、各チームは最初と同じメンバーで行う。ただし、順序は変えてもよい。

## 8. その他

- ① 選手の交代は、繰り返し何回でも行ってよいが、ジャッジ席側センターラインで行うこと。但し、ペナルティー・コーナーが与えられている間は、誰も交代できない（負傷した守備側のゴールキーパーは除く）。
- ② 試合開始時点において6人の選手がそろわない場合、試合中に退場・怪我などにより1チームの人数が4名以下になった時は、その試合は没収試合とする。そのチームのリーグ戦における全試合の記録は無効とする。
- ③ 出場チームが試合開始時刻までに参集しない場合は、棄権したものとみなし、相手チームに不戦勝を与える。棄権したチームはその後の出場を認めない。
- ④ 選手が負傷により出欠したとき、頭顔にボールが当たったときは、傷の手当てが完了するまでは再出場できない。
- ⑤ 雨天、日没等、試合続行不可能な状況の場合は、競技会場・試合開始時間の変更・試合時間の短縮等大会本部の指示に従うものとする。
- ⑥ ハーフタイム中のコート内の使用は禁止する。
- ⑦ 競技進行を円滑に行うため、試合開始予定時刻の10分前にはコートに集合する。また、試合終了後の相手チームへの挨拶は無とする。エントリメンバー（選手・監督・コーチ・代表者）以外の関係者はスタンドから観戦すること。
- ⑧ ベンチは、予選リーグにおいては「競技日程表」、決勝トーナメントにおいては、「組合せ表」の左側チームが森側のベンチとする。